

戦争—虐殺—天皇—自衛隊—連日の大演習……

9.18「沖縄を若める」集会に150余名

日刊 動労千葉

79.9.27

No. 233

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二三五八ノ九(公衆電話三七二〇七)

九月一八日、千葉市教育会館における「沖縄を若める映画・講演集会」は県下の労働者・市民・学生一五〇余名の結集をもって成功裡にちとられた。同時に千葉市中央公園に併設展示された金城実氏の「戦争と人間」と題する巨大壁画彫刻全国移動展は、生々しい戦争の姿を告発し、かつてない多くの市民の共感を呼び、反戦への原点を鋭く問いかけて、次の開催地横浜へとひきつがれていった。動労千葉は、三里塚空港反対同盟・部落解放同盟千葉県連、その他多くの文化人・諸団体に構成した集会・展示実行委員会の設営・動員等の中軸を担いきり、当日の関川委員長の講演でも鮮明に表明されたように来る「10・21国際反戦デー」への総力決起の決意をより一層うち固めた。

戦争・皇軍の本質を鋭くえぐる 『久米島の虐殺』を上映

集会の最初にドキュメント・フィルム「久米島の虐殺」が上映された。「天皇」の名のもとに強行された戦争のむごたらしさ、非人間性を鋭くつき出し、「沖縄を忘れて」生活しようとする本土の我々を鋭く告発するものであった。

一五年戦争の帰結として「本土防衛の防波堤」を強制された沖縄では、軍人七万人の死者に加えて沖縄全人口の1/3—一八万人の住民が殺されていったのである。「鉄火の雨」といわれた爆弾が島をおおい尽し地形まで変ってしまった沖縄。しかも、沖縄守備隊として君臨していた天皇の軍隊は敗戦終戦の確定した後になお「神国日本の氣概を示せ」と手榴弾や銃剣を村民に配り集団自決を強要した。久米島では朝鮮人の具さん一家七名の惨殺をはじめ、二ヶ月の間に島民九家族二〇名の人たちが鹿山隊長の命令でむごたらしく虐殺されていった。

映画は、戦争とは何か、天皇とは何なのか、軍隊とは何か、そしてまた、沖縄を見ずして本土の運動とは何か、を事実をもって我々に強烈に迫ってくるのだ。

10・21国際反戦デーに決起しよう

映画につづいて三氏の講演をうけた。

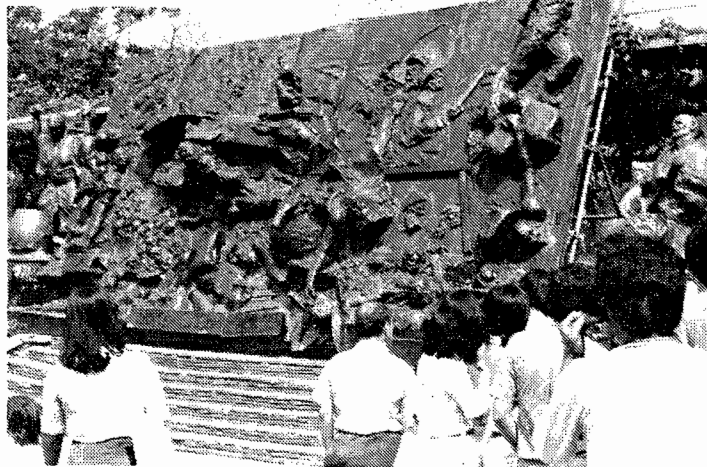
沖縄民権の会
古波津英興氏

は去る八月一八日より一四日間にわたって沖縄周辺空・海域と全島をおおい尽して強行された戦争挑発の大上陸演習「フォートレス・ゲイル」(要塞の嵐)をつぶさに体験した生々しい現状を一言一言に怒りをこめて詳細に報告し、「戦争は過去のものではなく、現に今どんどん進行させられている」と訴えた。

氏は「三里塚の闘いは沖縄の人々をこの上なくはげましていく。また既成の労働運動の腐敗をつき破って本当の労働運動の再生の道を示してくれ、た動労千葉の決起が沖縄でだんだん知られはじめ、ており皆熱烈に喜び心から期待している。沖縄の電通労働者は共感もって立ち上がっている」と我々の一層の奮起を訴え、会場は10・21にむけ固い決意をこめて拍手で応えた。

感動よんだ金城実氏の彫刻展

▶「久米島虐殺」を主題に沖縄人・朝鮮人の怨念と怒りを刻み込んだこの地獄図から眼をそらせてはならないだろう。



三里塚空港反対同盟
北原 敏治 氏

は、9・16現地闘争の成功が二期決戦への強固な突破

口を切りひらいた事を報告し、ジェット増送阻止をかかえて10・21へつき進む動労千葉一四〇〇名と、青年部を軸としたこの間の援農活動が、三里塚農民をどれだけ奮起させているかを具体的に報告した上で、自分の戦争体験、金城実氏の彫刻(岩山大鉄塔にとりつけられた「抗議する農民」像)のこと、そしてかつて沖縄を訪れた時のことを話し、最後に「安保ある限り、すべてが軍事基地となり、沖縄となる。更に決意をかため廃港へむけて10・21を闘う！」と決意を表明した。

動労千葉
関川宰 委員長

は「マル生粉砕闘争」―「水上ジェット闘争」の教訓をふり返えり、「今日の動

労大改革運動こそ一〇年の成否をかけた、八〇年代を迎えうための避けて通れない歴史的な大事業」―「三里塚との連帯・革マル暴力分子との対決の中でこそ本物の労働運動をつかむことができた」―「沖縄電通労働者の苦闘を知らされ、決意も新たに」―「道も辞さず10・21ジェット増送阻止にむけ奮闘を誓う」と表明し全体の熱烈な拍手をうけ、集会を終っていった。

9・16三里塚闘争、9・18沖縄集会の成功をひきつぎ、沖縄―三里塚―動労千葉を貫く10・21国際反戦デー決起にむけ、更に奮闘しよう！